

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：地元と関係機関が連携した水みちの連続性確保の取り組み		
水系/河川名：木曾川水系武儀川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：138km ²	整備計画流量：1150m ³ /s(W=1/30)	セグメント：1
事業：その他	事業開始年度：平成27年度	
目標設定：定性的	段階：D(実施・施工時)	
課題・目的(主な)：縦断的連続性の保全・再生・創出		
工法(主な)：魚道、落差工、帯工等の整備		
配慮事項(主な)：委員会、協議会等の開催		

背景・課題、目標設定

<背景・課題>

岐阜県ではこれまで、水田では農政部、河川では県土整備部がそれぞれ魚道整備をおこなってきた。しかし、「河川—排水路—水田」の水みちの連続性については着目されておらず、それぞれの境界では落差工による連続性の分断等が生じていた。その結果、魚類の生息域の縮減による多様性の喪失及び繁殖/成育場所の機能低下等が課題として挙げられていた。

<目的>

- 大目的：「河川—農業用排水路—水田」という水みちの連続性を再生させる取り組みを実施し、魚類が自由に移動できる面的な水みちの連続性を確保する。
- 小目的：モデル事業を選定し、当該地区の河川、農業用排水路、水田を往来する魚類等の生息環境を改善するため、地元と関係機関が連携して水みちの連続性を確保する。

取り組み内容・対策例

<取組内容>

○「水みちの連続性」の事業化に向け、まず、モデル事業として事業の実施及び効果検証を行う。

1. 各条件により、モデル地区の選定を行う
2. 河川及び排水路の落差解消・整備及び水田魚道の設置・整備を行う
3. 魚類の調査を行い事業効果の検証を行う
4. 検証結果を蓄積・活用し、事業化へ向け、費用対効果の検討等を行う

■ モデル地区における事業実施サイクル



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<当該年度成果>

1. モデル地区の選定
 - ・生態学的条件及び社会的条件により関市千足地区を選定した
 - ・「千足地区水みちの連続性推進部会」を発足した
2. 水みちの連続性を確保
 - ・河川側：岐阜県による擬石付根固めブロックの施工により落差解消を行った
 - ・排水路側：環境修復WGによる手作り階段式プール魚道の施工により落差解消を行った
3. 事業効果の検証
 - ・幹線水路にて新たに4種、施工前後平均比較で7種増加したことがわかり、落差解消による魚種の増加が示唆された



備考